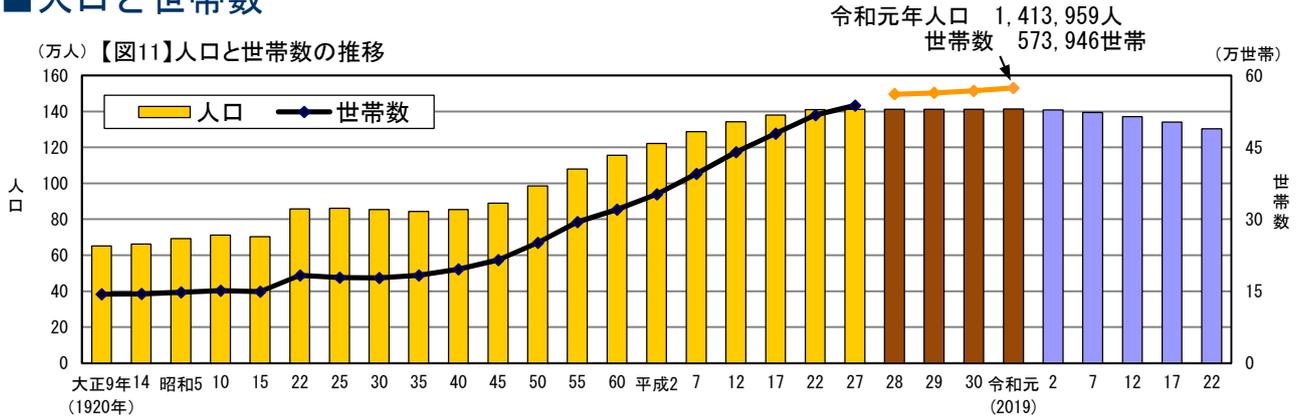


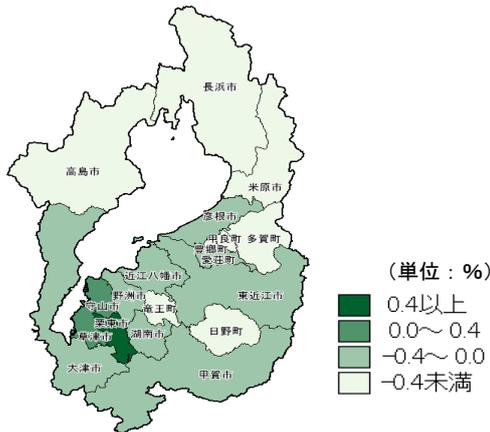
人口

人口と世帯数



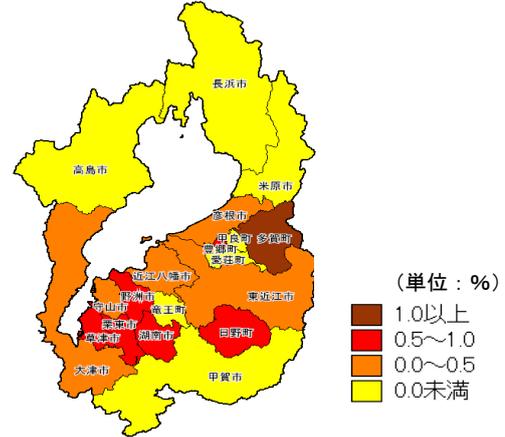
人口増減率

【図12】自然増減率
(平成30年10月1日～令和元年9月30日)

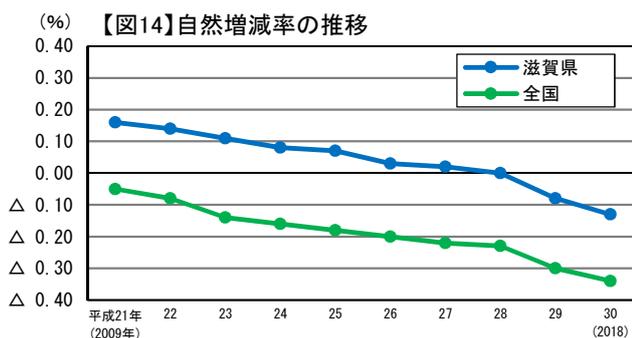


「県推計人口年報」県統計課

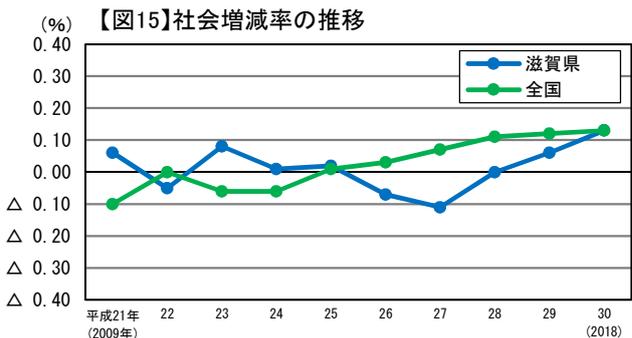
【図13】社会増減率
(平成30年10月1日～令和元年9月30日)



「県推計人口年報」県統計課



※1 各年10月1日の前1年間の増減率
「人口推計」総務省統計局

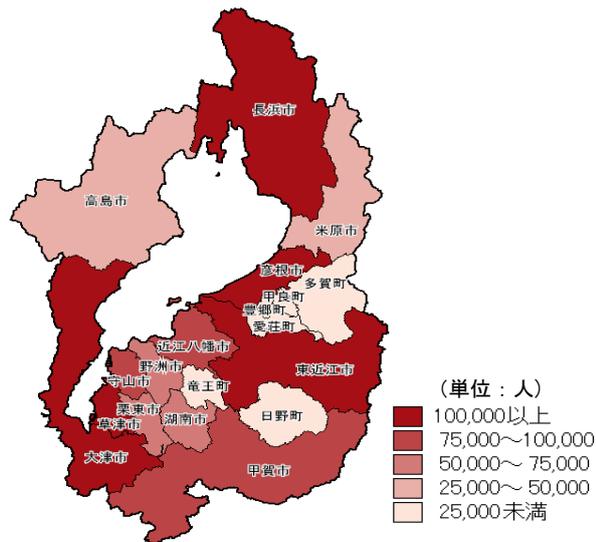


※2 各年10月1日の前1年間の増減率
「人口推計」総務省統計局

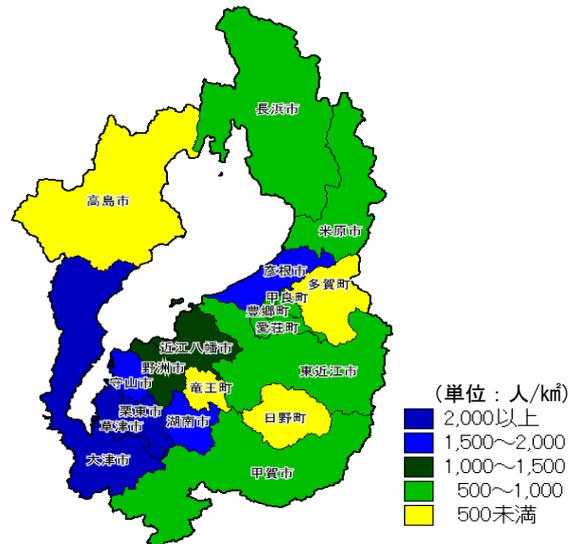
- ・令和元年10月1日現在の滋賀県推計人口は、1,413,959人となり、平成30年と比べると、1,078人の増加となった。(図11)
- ・自然増減率が最も高いのは栗東市(0.59%)、最も低いのは甲良町(△0.95%)、社会増減率が最も高いのは多賀町(1.41%)、最も低いのは高島市(△0.94%)となっている。(図12)(図13)
- ・平成30年10月1日現在の総務省統計局人口推計では、滋賀県の人口増減率は△0.01%で全国8位であった。自然増減率は△0.13%(全国4位)、社会増減率は0.13%(全国8位)であった。(図14)(図15)

■市町別人口と人口密度

【図16】市町の人口



【図17】可住地面積1km²当たりの人口密度



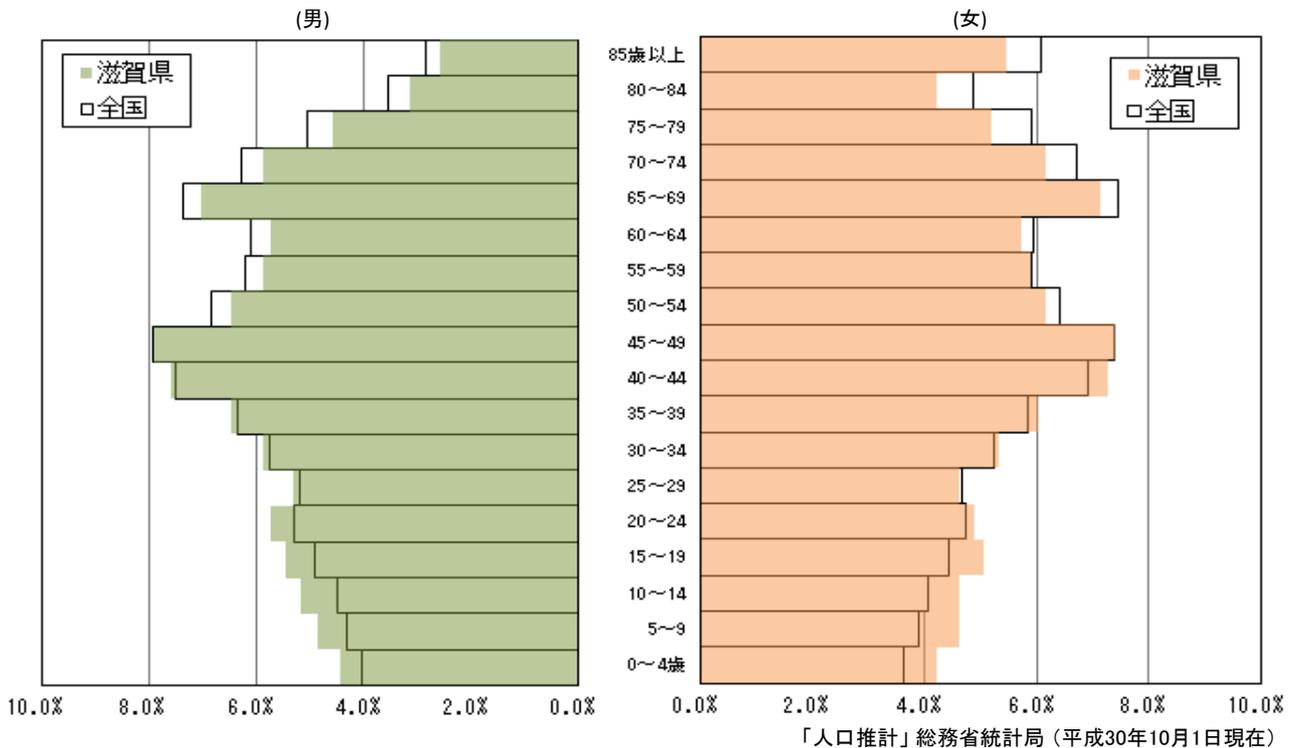
人口：「県推計人口年報」県統計課（令和元年10月1日）

可住地面積：「統計でみる市区町村のすがた2019」総務省統計局（平成29年度）

■人口ピラミッド*1

*1 人口の男女、年齢構成を表すグラフ

【図18】男女別・5歳階級別人口の割合



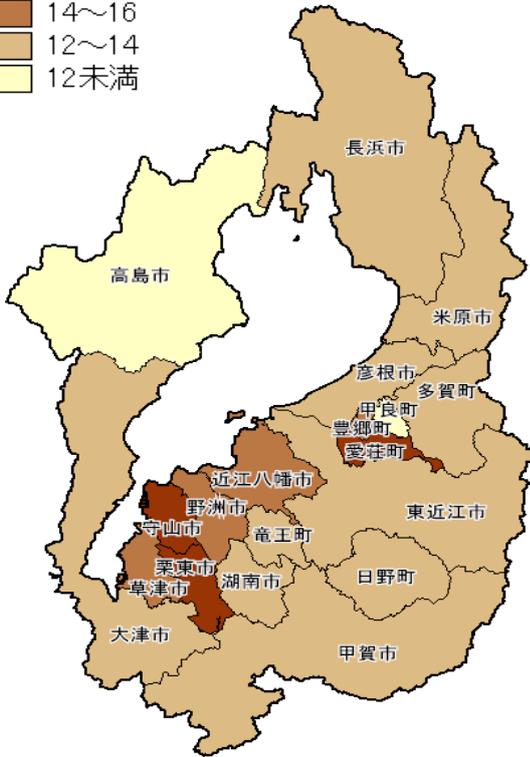
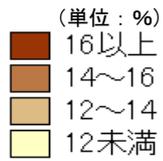
・令和元年10月1日現在の県の総人口（推計）は、1,413,959人で、市町別にみると、大津市の342,175人が最も多く、次いで草津市（141,928人）、長浜市（115,069人）の順で多い。（図16）

・可住地面積（平成29年度）1km²当たり市町別人口密度は、草津市が最も高く、次いで大津市、栗東市の順で高い。（図17）

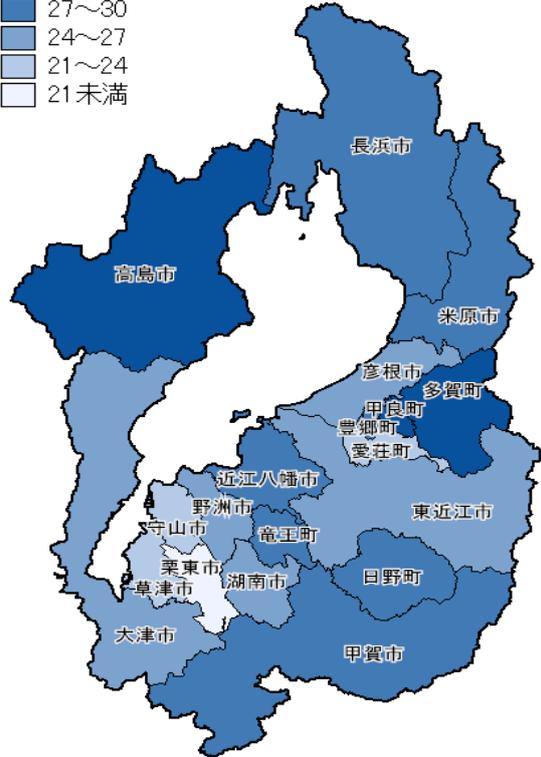
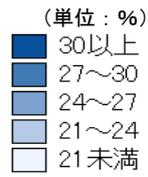
・県内の15歳未満の年少人口は約19万7千人で全人口の14.0%、15～64歳の生産年齢人口は約85万2千人で総人口の60.3%、65歳以上の老年人口は約36万4千人で総人口の25.8%である。（図18）

■年齢3区分別人口構成比（市町別）

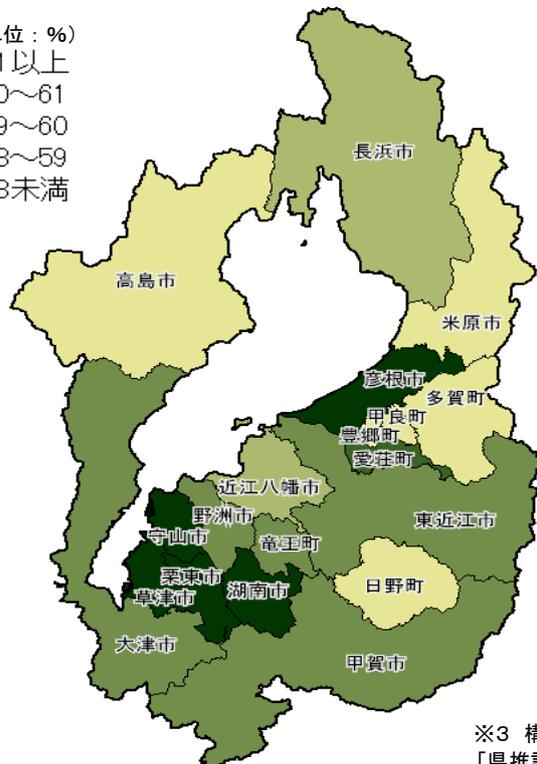
【図19】年少人口(15歳未満)



【図20】老年人口(65歳以上)



【図21】生産年齢人口(15～64歳)



※3 構成比は年齢不詳を除いて算出しています。
「県推計人口年報」県統計課（令和元年10月1日現在）

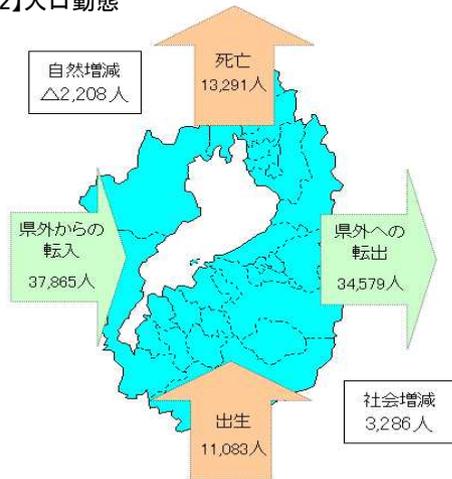
・年少人口割合を市町別にみると、栗東市が16.8%で最も高く、高島市が11.1%で最も低い。（図19）

・老年人口割合は高島市が35.4%で最も高く、栗東市が18.7%で最も低い。（図20）

・生産年齢人口割合は栗東市が64.5%で最も高く、多賀町が51.7%で最も低い。（図21）

■人口の動き（人口動態）

【図22】人口動態



「県推計人口年報」県統計課（平成30年10月1日～令和元年9月30日）

くらしの数字

滋賀県の1日（全国の1日）

出生数 31.1人（2,516.2人）

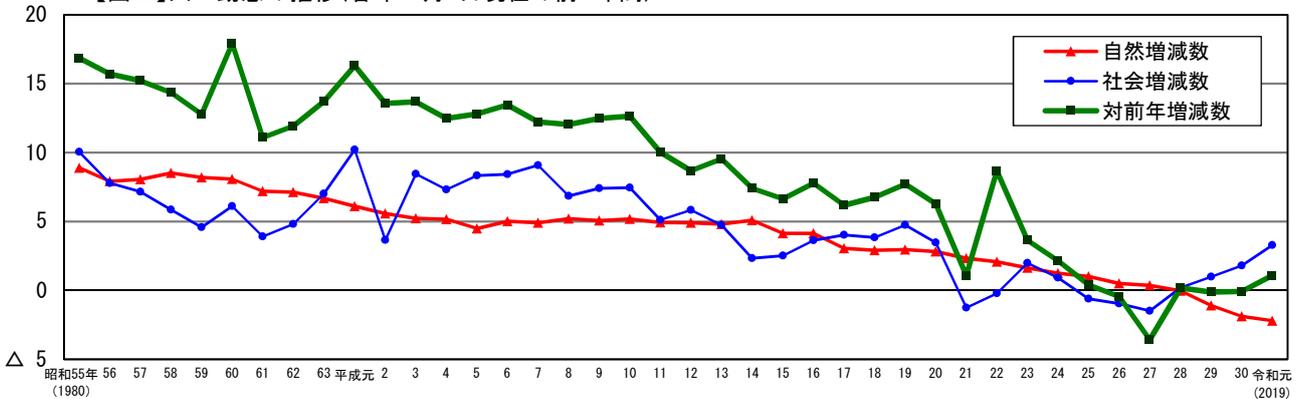
死亡数 36.3人（3,732.8人）

婚姻件数 17.7件（1,606.8件）

離婚件数 5.6件（570.8件）

「人口動態統計」厚生労働省
（平成30年1月1日～12月31日）

（千人）【図23】人口動態の推移（各年10月1日現在の前1年間）

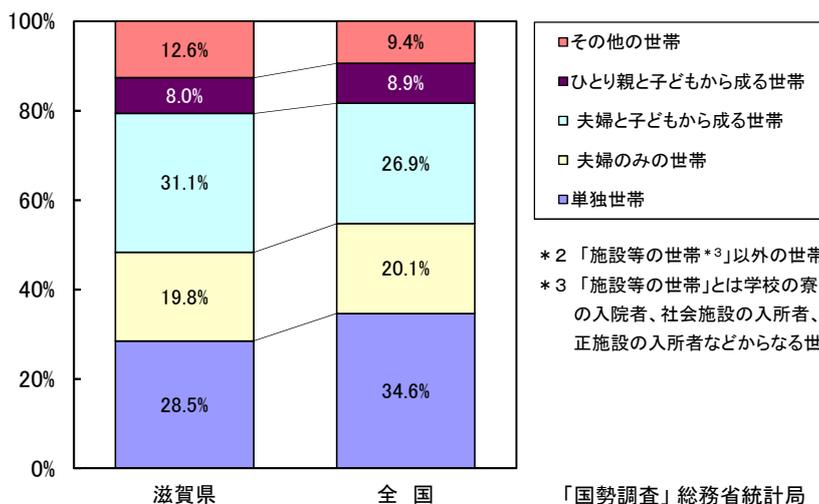


※4 国勢調査年は、同調査の人口を用いるため、対前年増減数は、自然増減数と社会増減数の合計とは一致しない。

「県推計人口年報」県統計課

■世帯の家族類型

【図24】一般世帯*2の家族類型別割合（平成27年10月1日現在）



・平成30年10月1日～令和元年9月30日の出生数は死亡数を下回り、自然増減数は△2,208人となった。県外からの転入人口が県外への転出人口を上回り、社会増減数は3,286人となった。（図22）（図23）

・平成27年国勢調査では、一般世帯のうち28.5%（全国34.6%）が単独世帯となっている。（図24）